

海外生活 エッセー

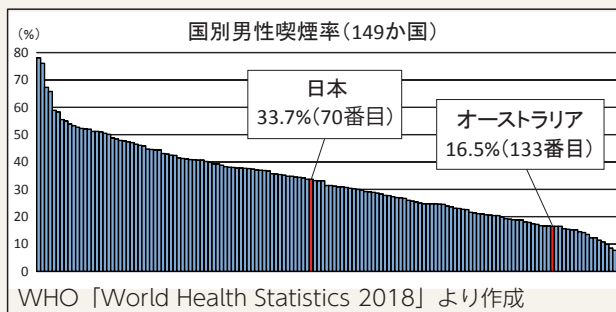
シドニー事務所

禁煙必至

～オーストラリアのタバコ事情～

(一財)自治体国際化協会シドニー事務所 所長補佐 菊田 大介 (総務省派遣)

オーストラリアは喫煙者にとっても厳しい国だと感じます。WHO (世界保健機関) が 2018 年に発表した国別男性喫煙率を見ても、オーストラリアは 16.5% (149 か国中 133 番目) と、喫煙率がとても低い国となっています (日本は 33.7% で 70 番目)。今回は、そんなオーストラリアのタバコ事情を紹介したいと思います。



→ 喫煙者に厳しいと感じる理由

喫煙者に厳しいと感じる理由は、いくつもあります。まず、銘柄を問わず全てのタバコのパッケージに、タバコの人体への影響を示す見えて気分が悪くなるような写真が載っているため、喫煙意欲が下がります。ちなみに、パッケージ統一規制は、オーストラリアが世界で初めて 2012 年に開始したものです。また、タバコは、日本同様、スーパーマーケットやコンビニでも購入可能ですが、店内を見渡しても見つけることはできません。これは、タバコの陳列販売が禁止されているためで、たいていはレジ後ろの「Smoking kills」と書かれた扉の中にしまっており、購入するのに壁を感じます。さらに、実際に購入する際は、店員にタバコの銘柄・本数・色を伝える必要があり、手間です。ちなみに、本数は、20、25、30 本などの区分があり、色はニコチン含有量の多い順に、Red、Blue、Gold、Silver などといった具合に分かれています。加えて、一般的に飲食店を含めた屋内で喫煙することはできず、屋外でも多くの場所で喫煙

が禁止されているので、喫煙するには、屋外の灰皿付きゴミ箱付近等に行く必要があります。面倒



です。ちなみに シドニー事務所前の「Smoke free」表示に、禁煙表示には、「No smoking」のほかに「Smoke free」と書かれたものがありますが、これは「喫煙自由」ではなく、「煙の無い」ことを意味し、禁煙場所であることを示します。

このように色々な面で喫煙者に厳しいと感じているところですが、喫煙者に厳しいと感じる最大の理由は、世界一高いとも言われる価格にあります。日本では 1 箱 20 本入りで 500 円程度が相場ですが、オーストラリアでは、その 4~5 倍の 30 豪ドル (1 豪ドル = 75 円換算で、2,250 円) は平気でします。喫煙をしていると、「タバコを 1 本くれ」と言われることがありますが、1 本 110 円以上するものをそう簡単には渡せないで、そういった場合、「last one (最後の 1 本だ)」と言って断っています。

→ おわりに

先日、スーパーマーケットで「Nicabate」という禁煙ガムを発見し、価格を見ると、1 箱 30 個入りで 13 豪ドル程度であり、タバコを買うより安く購入できることに気づくと同時に、日本でお馴染みの禁煙ガムである「ニコレット」(24 個入りで 2 千円程度) よりも安く購入できることにも気づきました。オーストラリアは、喫煙者にとっても厳しい環境にありますが、タバコを止めやすい環境にあるとも言えます。渡豪予定のある喫煙者の方は、この機会に禁煙を試みてはいかがでしょうか？